

徳島市立考古資料館館長

一山 典

80期史、82期博前史



考古資料館では、展示公開・教育普及・調査研究活動を中心に事業を展開している。

展示公開活動では、常設展示（特別企画展等に関連して一部資料の展示替えを実施）と企画展示を現在では年3～4回〔特定のテーマに即した県内外資料を展示する特別企画展「徳島の歴史と文化」に関連したテーマに即した企画展、本課である社会教育課による前年度等の発掘調査成果を展示する速報展など〕開催し、平成10年11月の開館から平成19年12月まで41回開催している（平成11・12年度は特別企画展2回、その他は1回）。

特別企画展の実物資料等の展示は、旧石器時代から中世を対象（速報展等は近世含む）とし、当初は西日本などの広い範囲を対象としていたが、美専車の予算減等の関係で、次第に南海道や四国・中国・近畿地方と範囲が狭まり、現在は四国地方をカバーする程度となっており、その他の地域の資料は必然的に写真パネル等に頼らざるをえず、手持ち資料が限定される企画展と同様に内容充実に苦慮しているところである。

考古資料館には企画展示室がなく、常設展示室（200㎡）の一角（写真1の中央部の覗き込みケース配置部分）での展示のため、常設展示を見学するための入館者の動線を妨げないように、展示準備を進めなければならない。

入館者増の対策として、教育普及活動の生涯学習講座として、特別企画展と関連したテーマによる県内外講師による考古学入門講座〔5回講座、有料〕や特別企画展や企画展の記念講演会（無料）、体験学習講座の小・中学生と保護者を対象としたふれあい考古学教室〔夏休み期間中の土器づくり、11月23日の勾玉づくりや火起こし体験など〕を開催し、調査研究活動では特別企画展記念シンポジウムの開催などで一定の成果をあげているが、研修室のスペースによる人数制限（80人）のために、大幅増が望めないのが現状である。

徳島市内などの小・中学校の児童・生徒も遠足などで5月と10・11月には多く来館するが、考古資料館周辺の学校は徒歩等で利用できるが、遠くの学校で生徒数が多い場合は、大型バス等の確保に苦慮している現状である。

平成15年度の開館5周年記念特別企画展「謎の青銅器 銅鐸」などのような青銅器関係などの展覧会の開催などは、入館者増にも繋がり、市民ニーズの一端を示しているが、当館の基本的性格であり、使命である「文化財資料の次代への保存継承」という立場からは、入館者数増があまり望めない場合でも、地域と密着したテーマに即した企画展の開催なども視野に入れておかなければならない。徳島大学での毎年20数人の博物館概論の講義の一環としての考古資料館の学生の展示評価などの新鮮味を感じ、母校の國學院大學での博物館の実践活動などを学んだ時の初心を忘れずに、地域における博物館活動の重要性を十分肝に銘じ、今後の事業活動を推進していきたいと考えている昨今である。



特別展 「弥生の青銅器の世界」パンフレット



常設展示室



開館5周年記念特別企画展「謎の青銅器 銅鐸」